

日本語パートナーズ台湾 第8期活動報告

「日本語パートナーズ派遣事業」は、日本からアジアの中学・高校等に、現地の日本語教師の授業のアシスタントや日本文化の紹介等を行う「日本語パートナーズ」を派遣し、日本語教育を支援する事業です。台湾では独立行政法人国際交流基金から当協会が一部を受託し実施しています。

2023年度は台湾第8期として10名が2023年9月13日から12月20日までの約3ヶ月間、台湾各地の高校に派遣されました。今回はその中から2名の日本語パートナーズの活動を紹介します。

たくさんの学びと経験をこれからに 岡野 奈々

私は台湾8期として2023年9月半ばから同年12月半ばまで宜蘭に派遣されていました。派遣校は宜蘭高校、巡回校は宜蘭商業職業高校でした。派遣されていた期間は約3ヶ月と短いですが、私が活動してきたことを紹介します。

私の主な出勤先は宜蘭高校で朝9時から夕方5時までの勤務でした。生活CP先生(生活のサポートをしてくれる先生)から自転車をお借りしていたので自転車で通っていました。職員室には少し日本語を話せる先生がいらっしゃる、あまり中国語ができない私をたくさん気遣ってくださりました。担当した生徒は日本語や日本文化にとっても熱心で積極的に日本語クラブに参加してくれたり、休み時間には私に会いに職員室まで来てくれたりする子もいました。私にとって今回の派遣は初めての海外でもあったので不安と緊張が大きかった初めの頃は台湾の生徒、先生方の優しさにたくさん励まされました。

学校生活に慣れてくると、生徒の日本語クラブ(週3回)を開講するようになりました。生徒は基本的に日本語専攻をしているので会話は全て日本語で行われました。学年ごとに日本語習熟度が異なるので、わからない日本語が出てくると上級

生が説明する、通訳するという良い循環が見られました。

日本語クラブで取り入れた文化紹介で一番生徒の興味を引いたのは抹茶体験でした。抹茶を飲んだことがある生徒は複数人いましたが、台湾で飲む抹茶は抹茶ラテになっていることが多く、抹茶を点てて茶碗で飲んだことがある生徒はいませんでした。私自身茶道を習っていた経験がないので、お手本を見せる際に手こずらないように学校から茶器を借りて毎朝自分で抹茶を立てる練習をしました。日本文化を教えるならばまずは自分が日本文化に詳しくなければならぬと感じたのです。日本人感覚でやり過ぎてしまうことも言語化し



抹茶を点てる見本

なければなりません。その難しさと私自身も成長できる機会を感じ、試行錯誤する時間はとても有意義でした。

休日は出かけることが多く、任地のことを知るべく、博物館や観光スポットとなっているところを一通り回りました。宜蘭は私の地元に近い部分が多く、とても親近感が湧きます。葱がとても有名で葱油餅は宜蘭の名物です。グルメな人が多く、先生や生徒に聞くとどこのお店が美味しかったかたくさん教えてください、連れて行ってくれます。私は飽きるまで同じものを食べ続けてしまう性分なのですが、おかげでたくさんの宜蘭グルメを賞味できました。

季節の行事として私が派遣期間中にあった大きなイベントは中秋節と国慶節でした。特に中秋節はみんなでお祝いするので先生の親戚の家のBBQに参加したり、住んでいるマンションの大家さん一家とBBQしたり、普段関われない人と交流を持つことができで新鮮な気持ちでした。何回かハイキングにも出かけ、旅先での新しい出会いや壮大な景色を楽しむこともできました。誰かと行動することもあったのですが1人旅も多く、

1人で出かけるたびに強くなった気がして自信につながりました。

私は将来、海外で日本語教師をしたいと考えているので今回の台湾派遣は私にとって自分の将来像を構築する上でとても大きな意味を持っています。初めての海外生活で言葉もあまり通じない中、どれだけのことのできるのか、何を経験することができるのか、挑戦の連続でした。頑張ったら頑張った分、生徒や先生からの反応がよく、異文化を知ることへの興味と熱意は上がることはもちろん、教えることのやり甲斐も感じられるようになりました。初めての海外、初めての授業が台湾であった私はとても恵まれています。SNSなどを通して生徒や先生と繋がりを保っていきたいですし、これから日本語教師を目指す上でこの経験を忘れずにいたいと思います。

台湾のみなさんのあたたかさを全身で感じた100日間 中道 敦子

私たち台湾8期10名は、2023年9月から12月までの約100日の活動期間でした。活動期間が短い分、それぞれが自分にできることを準備し積極的に活動をして悔いのない派遣期間を過ごせたと思います。

私は彰化県溪湖鎮の国立溪湖高校に派遣されました。溪湖鎮は台中より少し南の彰化県にある町です。気候が良くて空が広く毎日気持ちよく過ご



草嶺古道をハイキング！



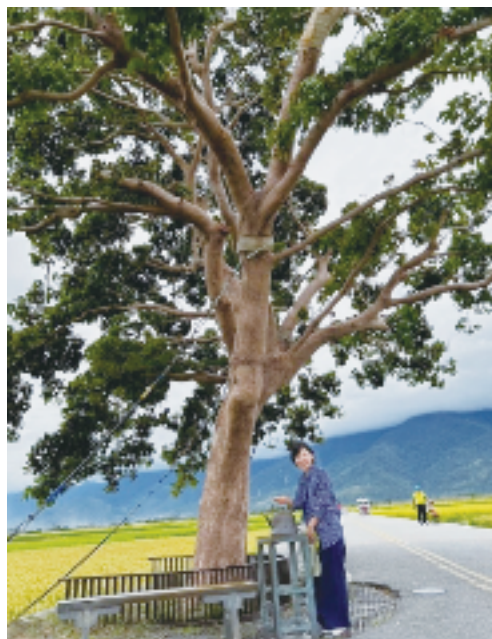
豆乳と飯團（台湾おにぎり）



いつも行っていた朝ごはん屋のご家族

せました。小さい町なので、朝ごはん屋や餅屋、バスの運転手さんなどとすぐに仲良くなれ、どこに行っても私が日本人だとわかると、「日本好きだよ。」「日本に行ったことあるよ。」と声をかけてくれる町の人達にいつも助けられました。食べ物はなんでも安くておいしく、特に学校近くの朝ごはん屋さんの“飯團”という台湾おにぎりは毎日通って食べる程気に入っていました。このおにぎりはもちもちの“紫米”を使っていて、台湾にしかない具がたくさん入っていて一つで満足できます。さらに、このお店のご主人からは庭でとれたバナナや自家製仙草ゼリーなど買った朝ごはん以上のおまけをいただくなど、台湾の方のあたたかさもいただきました。

活動期間中、週末になると同僚の先生から「せっかく台湾にいるんだから台湾を楽しんで！週末はどこに行くの？」と、いわれていたのですが、連休を利用して台東に行くことにしました。目的は“金城武の樹”を見に行くことです。私は90年代から金城武のファンで、「台湾の旅行はまずここに行こう。」と、決めていました。同僚の先生に台東旅行のことを報告すると、同世代の先生たちも「私も金城武好きよ～。同世代の人はみんな好きだよ。」と職員室中大変盛り上がり、先生方との距離がぐっと縮まって仲良くなりました。また、日頃から気にかけてくださり、中秋節には「台湾では月餅を食べるよ。」「柚子（台湾の柚子と呼ばれるものはとても大きいグレープフルーツ大の柑橘類）はこの季節おいしいよ。」など、食を通して台湾の文化をたくさん教えていただきました。



金城武の樹

学校は日本語パートナーズの受け入れ体制が整っており、一日目から授業に参加したり三日目から文化紹介ができたりするなど、初日から最終日までとても充実していました。

自己紹介で私の趣味（手芸や料理）を紹介したところ、先生も学生も興味津々で、定番の浴衣や抹茶体験だけでなく、折り紙を使ったキーホルダーやアクセサリ作り、つまみ細工のアクセサリ、絵馬・お守り作り、みたらし団子、キャラおにぎり、絵巻寿司作りなど実際自分たちが手を動かして日本を知ってもらう体験を三か月間詰め込んで活動させていただけました。必要なものや場所の手配、当日のサポートなどしていただいたおかげで私も楽しんで授業ができました。

溪湖鎮では日本人は私以外見かけることがなく、せっかく日本語を勉強しても実際に使う場面がない環境です。同世代の日本人と交流の機会を持ちたいという学生からの要望があり、日本の中学校とのオンライン交流会を企画しました。日本の学生に質問したいことや日本人に教えたいことを事前に自分の言葉で考え、実際にやり取りをするという時間は、日ごろ日本人と接する機会のない学生たちにとって緊張する場面でもあり、楽しい時間でもあったと思います。私もこの交流会を通して、台湾の高校生が「何をきっかけに日本語に興味を持ったのか」、「日本の何が好きなのか」

を知ることができ、有意義な時間でした。日本語には自信のある学生も「実際に話すと緊張して思ったように話せなかった。次はもっと準備をして思ったことを話したい。」と準備をして、二回目の交流会では積極的に会話して、自信につなげることができたのが私も嬉しかったです。

本当にあっという間に過ぎていった100日間でしたが、これからも町の人や学校の先生方と連絡を取り合い、日本や台湾の文化を共有しあって、台湾でお世話になった方々との縁をつなげて広げていきたいです。



オンライン交流会の様子